

4-8 伊豆半島におけるラドン観測 (V)

Radon Observations in the Izu Peninsula (V)

東京大学 理学部

Faculty of Science, The University of Tokyo

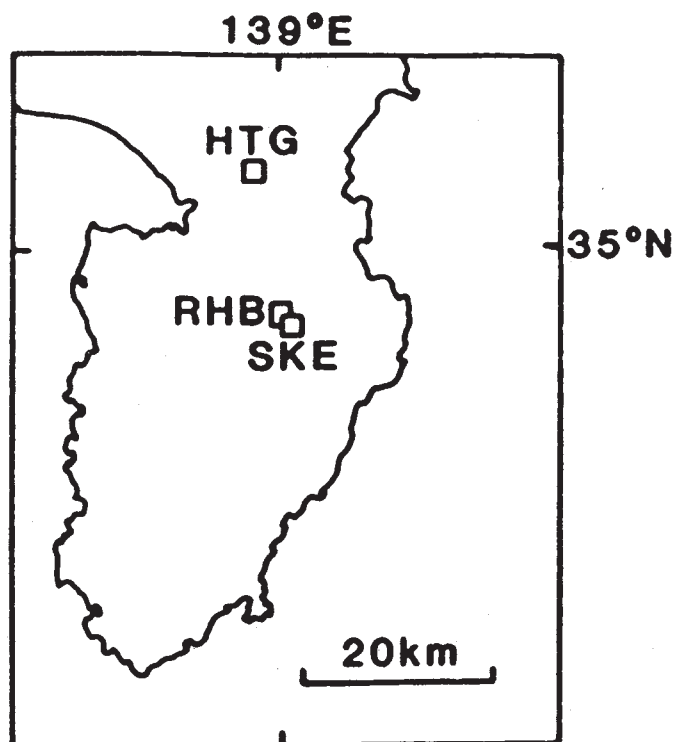
前報¹⁾にひきつづき伊豆半島における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1985年11月～1986年11月)を報告する。

観測点は第1図に示す函南 (HTG), 中伊豆 (RHB), 中伊豆 (SKE) の3点である。第2図は各地点における連続観測の記録で, 1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均値を, この期間内の平均値に対する相対値で示したものである。

今回の HTG での平均値は誤差の範囲内で前回報告した値と一致するが, RHB ではラドン濃度が僅かに増加した。一方 SKE の平均値は 1985 年の平均値から 20cpm 程度減少した。長い周期の変動(年周変動)が小さいというこの地域の特徴は今回も見られる。短周期の変動は HTG では大きく, RHB と SKE では小さい。今回の記録でも, RHB において 12 月中旬から 3 月初めにかけて, 異常な変動がみられた。

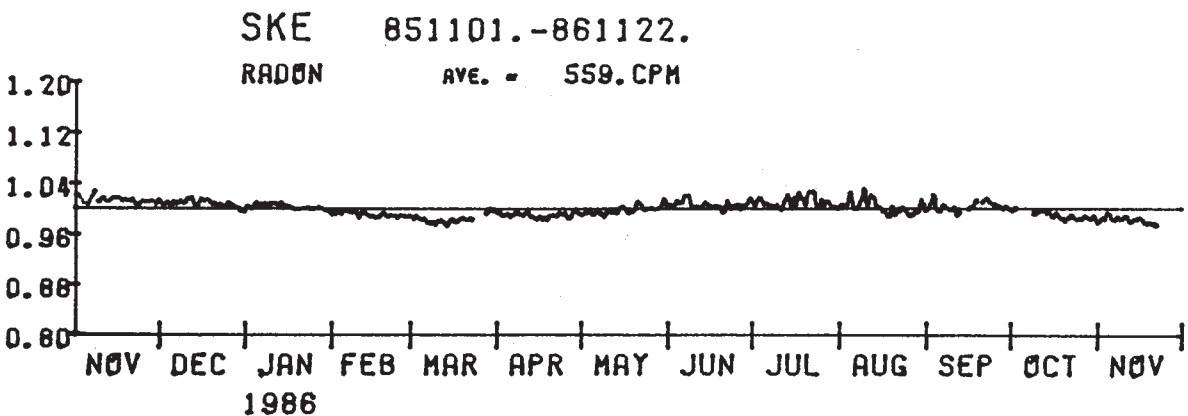
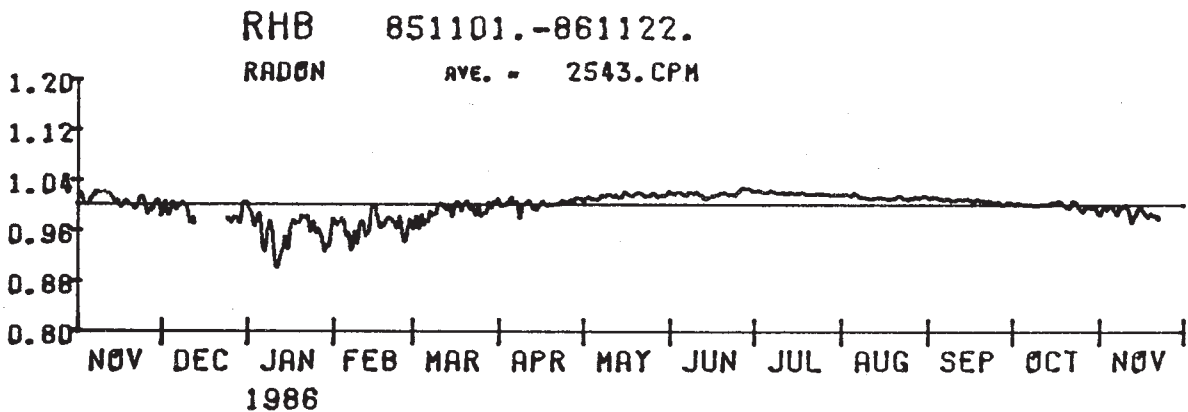
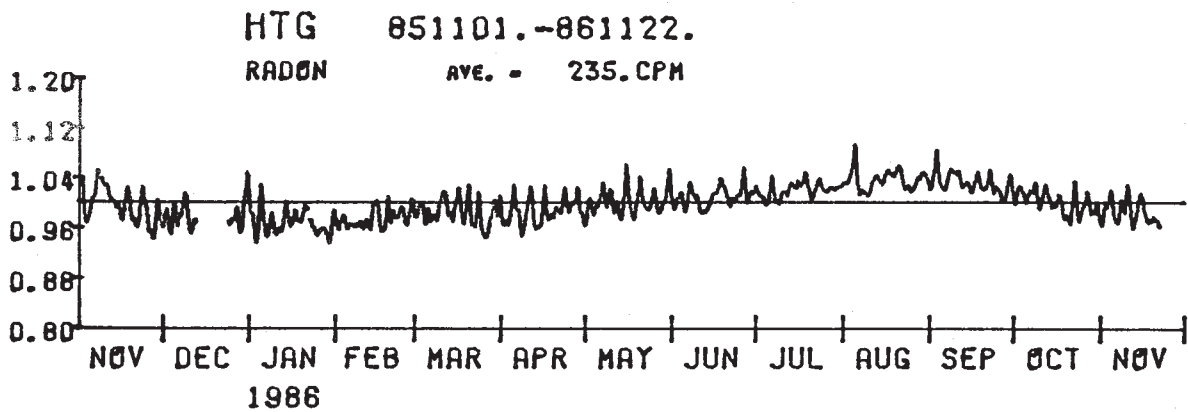
参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部; 伊豆半島におけるラドン観測 (IV), 連絡会報, 35 (1986), 259-260.



第1図 伊豆半島の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Izu Peninsula (HTG: Kannami, RHB: Nakaizu, SKE: Nakaizu).



第2図 HTG (函南), RHB (中伊豆), SKE (中伊豆) における地下水中のラドン濃度の変化 (1985年11月~1986年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration of groundwater at HTG (Kannami), RHB (Nakaizu) and SKE (Nakaizu). (November, 1985 - November, 1986).